

Ⅱ 和歌山県の農林水産業の動向

1 農業部門

1) 農業指標

本県の農業経営体は**18,141**経営体で、うち個人経営体は**17,976**経営体である。個人経営体のうち主業経営体が**31.9%**、準主業経営体は**11.7%**、副業的経営体は**56.4%**で、**65歳未満**の世帯員がいない副業的経営体の比率が高い。（2020年農業センサスより）

耕地面積は**30,700ha**であり、その利用形態は田耕地**29.1%**、畑耕地**71.0%**である。

農業産出額は令和5年**1,128**億円

（構成比：米**5.3%**、果実**68.6%**、野菜**11.1%**、花き**6.3%**、畜産**3.6%**）

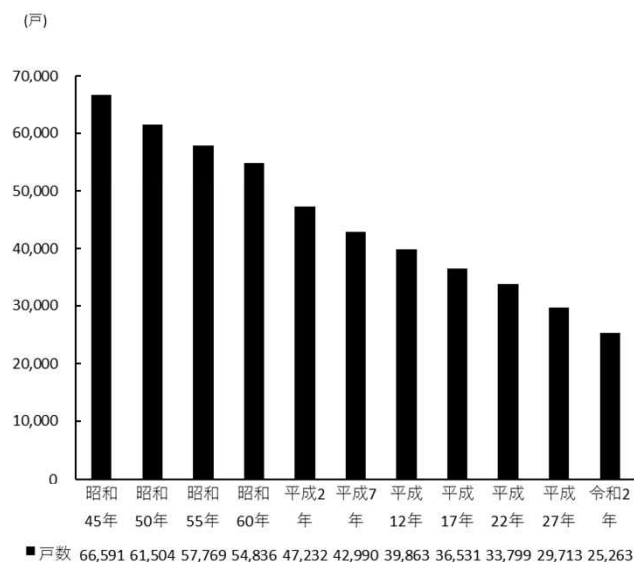
	令和2年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
総農家	戸 25,263		戸 5,200	戸 4,114	戸 3,304	戸 3,746	戸 4,556	戸 3,560	戸 783
農業経営体	経営体 18,141		経営体 3,330	経営体 2,997	経営体 2,238	経営体 3,232	経営体 3,608	経営体 2,404	経営体 332
個人経営体	17,976	% 100.0	3,309	2,975	2,216	3,200	3,580	2,374	322
主業経営体	5,732	31.9	749	853	497	1,332	1,373	875	53
準主業経営体	2,104	11.7	399	354	289	342	417	273	30
副業的経営体	10,140	56.4	2,161	1,768	1,430	1,526	1,790	1,226	239
団体経営体	165		21	22	22	32	28	30	10
	令和6年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
耕地面積	ha 30,700	% 100.0	ha 5,479	ha 4,933	ha 3,424	ha 5,218	ha 5,995	ha 4,874	ha 838
田耕地面積	8,930	29.1	2,314	1,733	861	459	1,850	1,154	564
田本地面積	8,480	27.6	2,241	1,647	805	425	1,770	1,073	515
畑耕地面積	21,800	71.0	3,172	3,200	2,566	4,750	4,144	3,716	274
	令和5年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
農業産出額	億円 1,128	% 100.0	千万円 1,585	千万円 2,044	千万円 1,315	千万円 2,566	千万円 2,044	千万円 1,393	千万円 172
米	60	5.3	189	120	53	28	123	73	18
果実	774	68.6	956	1,389	1,044	2,235	1,054	1,041	26
野菜	125	11.1	269	226	92	42	511	72	33
花き	71	6.3	-	-	-	-	-	-	-
畜産	41	3.6	69	63	84	69	24	33	66

※ ラウンドしているため、各数値の積み上げが、合計と一致しない場合があります。
花きの地域別産出額は、秘密保護による非公表の市町村が多いため掲載しておりません。
(2020年農林業センサス・農林水産統計年報)

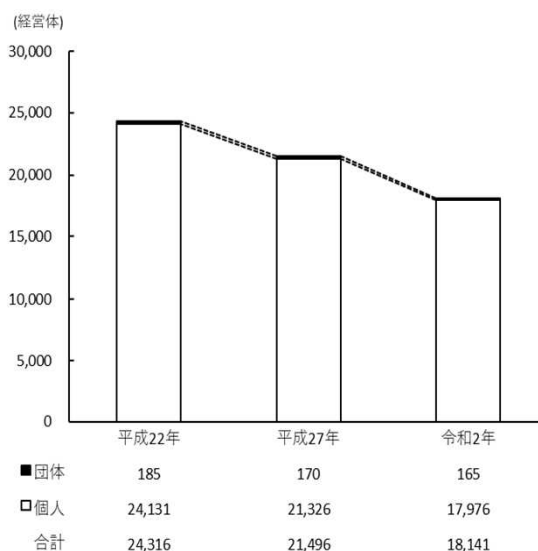
2) 農業を担う人々

令和2年の農家数は25,263戸で減少傾向が続いている。経営規模が1ha未満の農業経営体が61.1%を占める。年齢別の基幹的農業従事者では65歳以上の占める割合が63.9%となっている。平成7年以降、新規就農数は増加傾向にある。

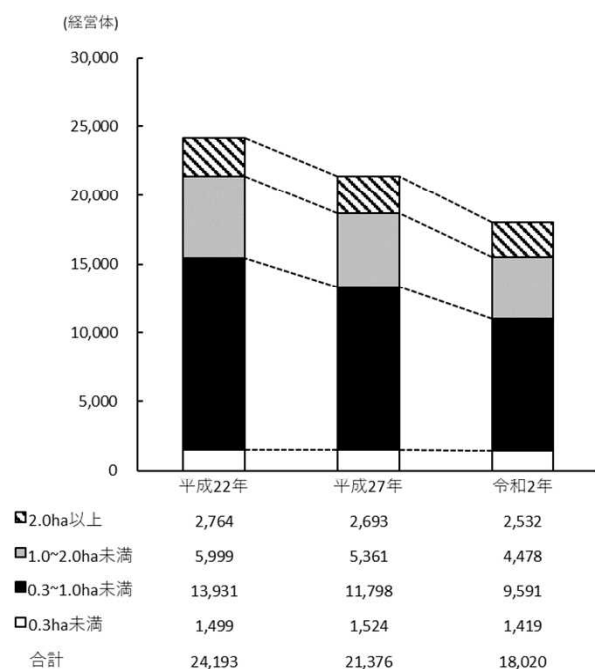
農家数の推移



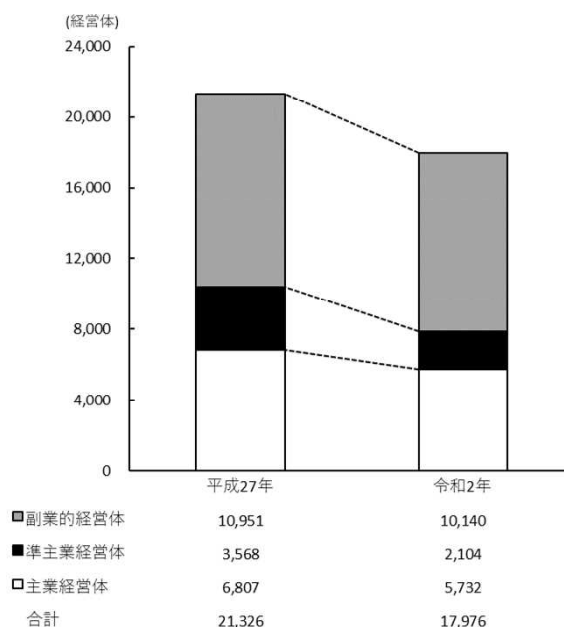
農業経営体数の推移



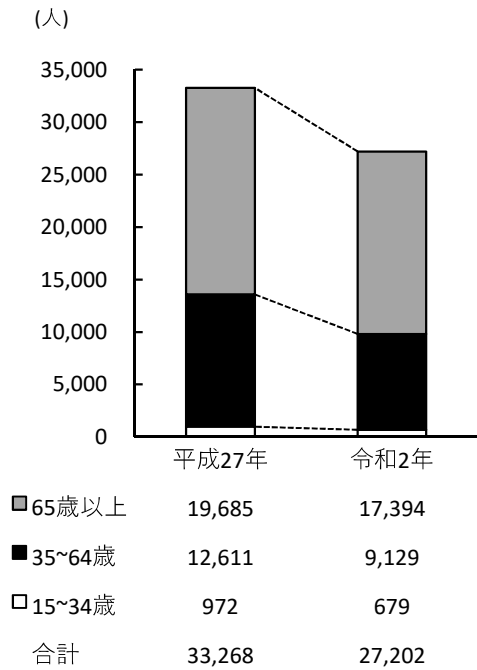
経営規模別経営体数
(経営耕地のある経営体)の推移



主副業別農業経営体数（個人経営体）の推移



年齢別基幹的農業従事者数
(個人経営体) の推移



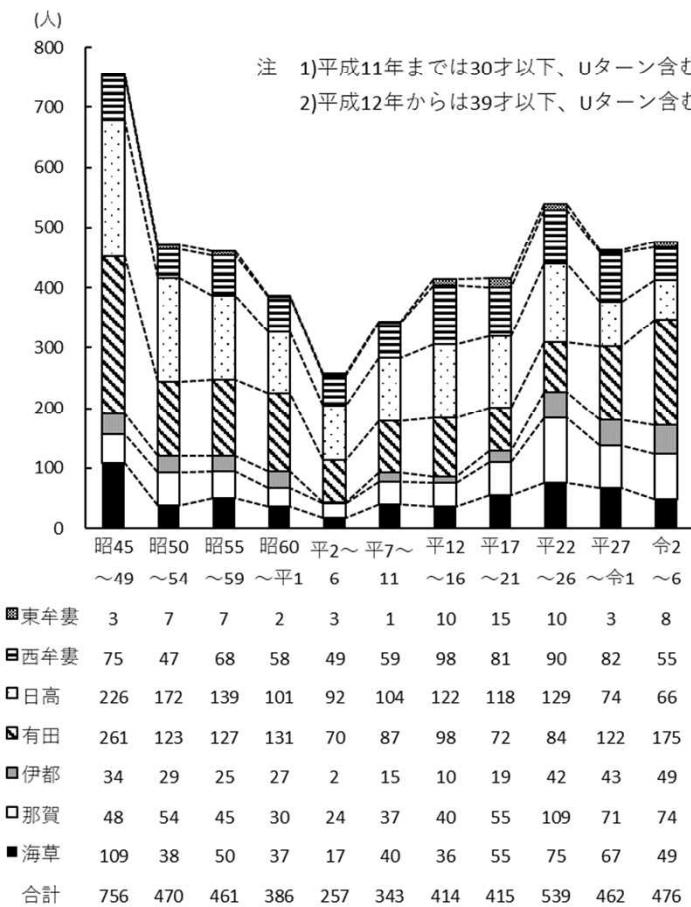
農家数

令和2年	全国	和歌山		
	実数	実数	順位	シェア(%)
総農家数	1,747,079	25,263	33	1.4
販売農家数	1,027,892	17,250	29	1.7

令和2年	1位	2位	3位
総農家数	長野	茨城	兵庫
販売農家数	茨城	新潟	福島

(2020年農林業センサス)

新規就農数推移



(経営支援課業務資料)

農業経営組織別経営体数 (令和2年)

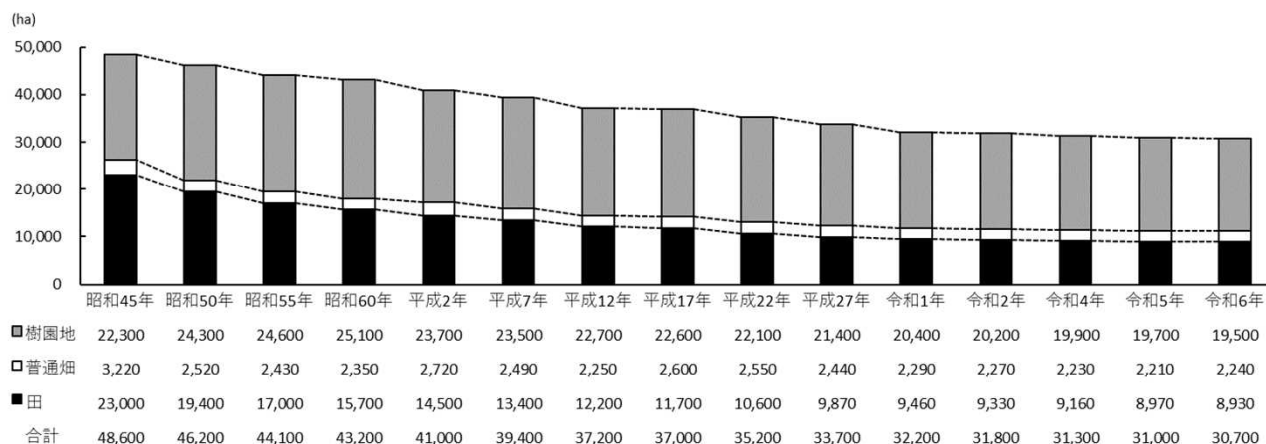
令和2年	経営体数	構成比 (%)	
単一経営	14,530	84.6	
	稲作	2,622	15.3
	野菜	907	5.3
	果樹	10,355	60.3
	花き・花木	401	2.3
	畜産	65	0.4
	その他	180	1.0
複合経営	2,653	15.4	
合計	17,183	100.0	

(2020年農林業センサス)

3) 耕地面積

耕地面積は減少傾向にあるなかで樹園地の比率が高まっている。
施設面積は平成9年の909ha（耕地面積の2.3%）をピークに減少している。

田畑別耕地面積の推移



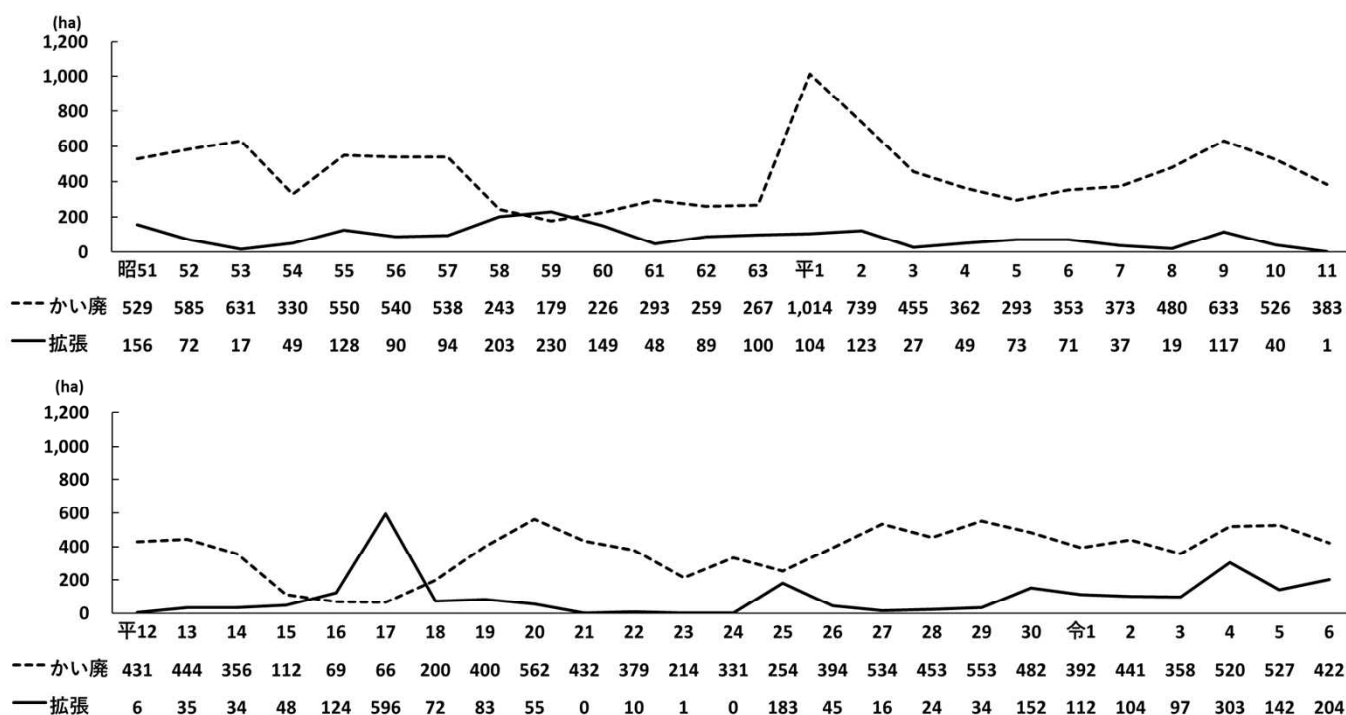
（農林水産統計年報）

耕地面積

令和6年	全国	和歌山			1位	2位	3位
	耕地面積(ha)	耕地面積(ha)	順位	シェア(%)			
田	2,319,000	8,930	42	0.4	北海道	新潟	秋田
畑	1,952,000	21,800	21	1.1	北海道	鹿児島	青森
合計	4,272,000	30,700	38	0.7	北海道	新潟	茨城

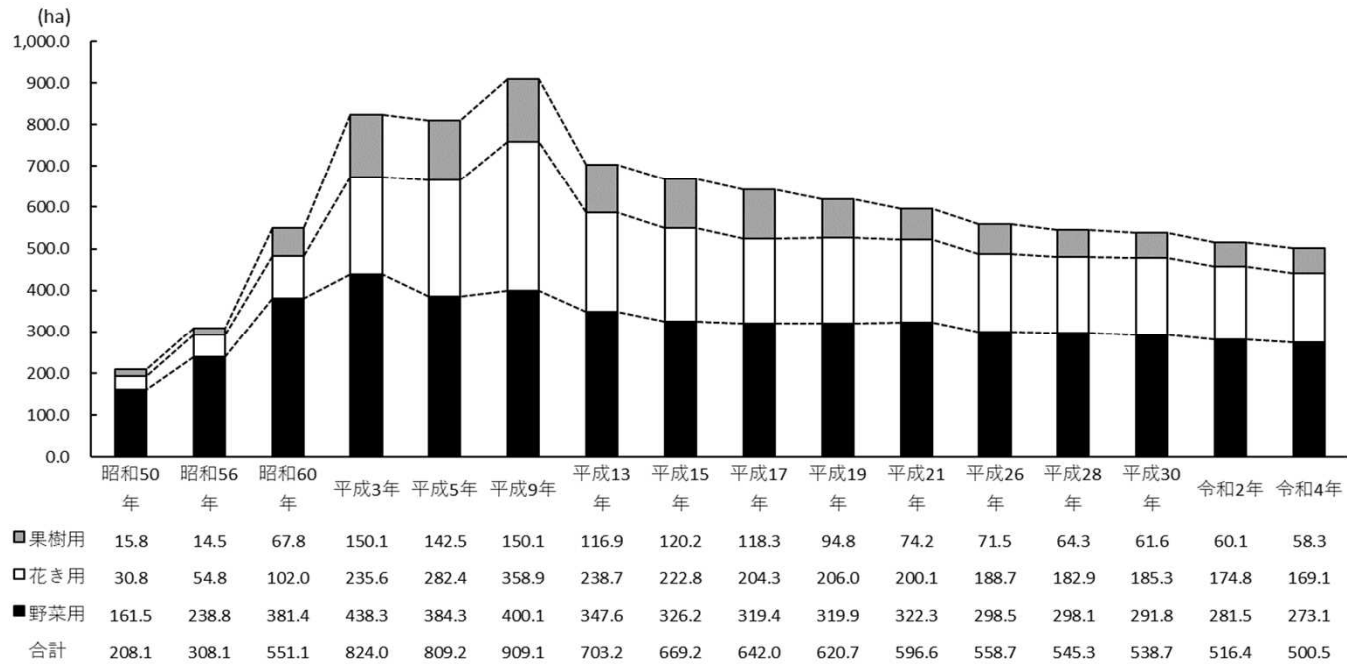
（農林水産統計年報）

耕地の拡張・かい廃の推移



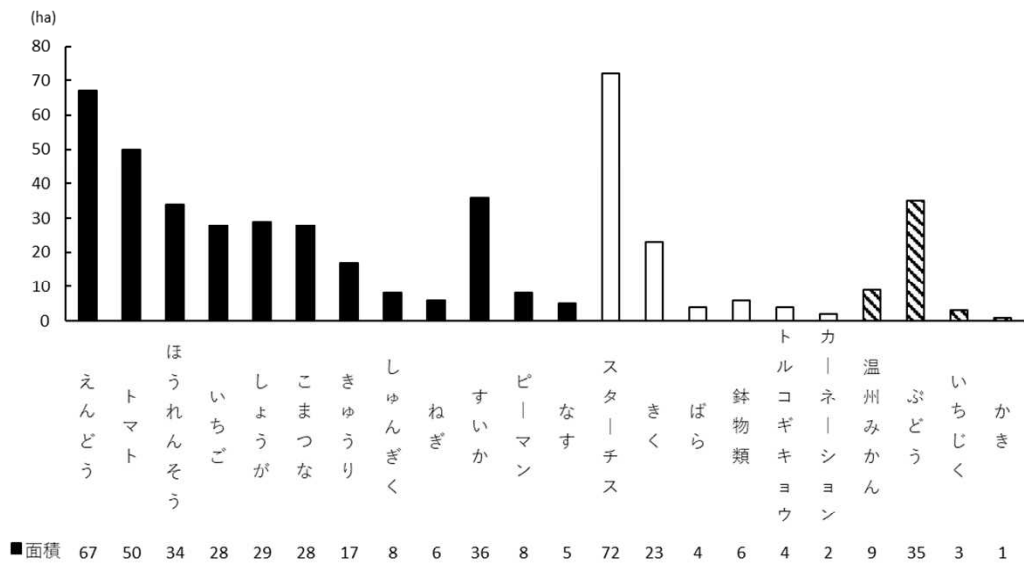
（農林水産統計年報）

施設設置面積の推移



(園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査：昭和50年～平成21年)
(園芸用施設の設置等の状況：平成26年～令和4年)

主要品目別施設栽培延面積（令和4年）



施設園芸作物付延面積の推移

	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成13年	平成15年	平成17年	平成19年	平成21年	平成26年	平成28年	平成30年	令和2年	令和4年
野菜	197	358	663	580	432	380	382	377	419	400	408	401	367	346
花き	35	79	180	276	266	210	220	211	205	176	199	189	190	179
果樹	16	15	80	137	117	120	118	92	74	72	64	62	60	58
合計	248	452	923	993	815	710	720	680	698	648	671	652	617	583

(園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査：昭和50年～平成21年)
(園芸用施設の設置等の状況：平成26年～令和4年)

4) 農業生産

作付面積は年々減少傾向にある。

年間作付延面積の推移

	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
合計(ha)	51,600	48,300	45,400	44,200	39,900	37,500	34,300	33,700	32,200	30,600	29,400	28,700	28,300	27,800	27,300
稲(%)	36.6	33.1	28.5	26.9	25.3	25.2	24.1	23.8	23.7	22.6	-	-	-	-	-
野菜(%)	15.9	16.1	16.5	15.0	13.2	11.5	10.1	9.8	8.3	8.1	-	-	-	-	-
果樹(%)	39.7	46.2	49.6	52.3	54.1	56.8	59.7	60.8	63.4	65.0	-	-	-	-	-
その他(%)	7.8	4.6	5.4	5.8	7.4	6.5	6.1	5.6	4.6	4.3	-	-	-	-	-

(※平成29年以降の構成割合は不明。)

(農林水産統計年報)

作付面積の構成 (令和5年)

令和5年	果樹					
	みかん	うめ	かき	もも	すもも	キウイ フルーツ
面積(ha)	7,110	5,270	2,490	706	273	168
割合(%)	26.0	19.3	9.1	2.6	1.0	0.6

令和5年	稲	野菜					その他	合計
	水稲	えんどう	キャベツ	はくさい	だいこん	たまねぎ		
面積(ha)	5,780	198	172	122	109	92	4,810	27,300
割合(%)	21.2	0.7	0.6	0.4	0.4	0.3	17.6	100.0

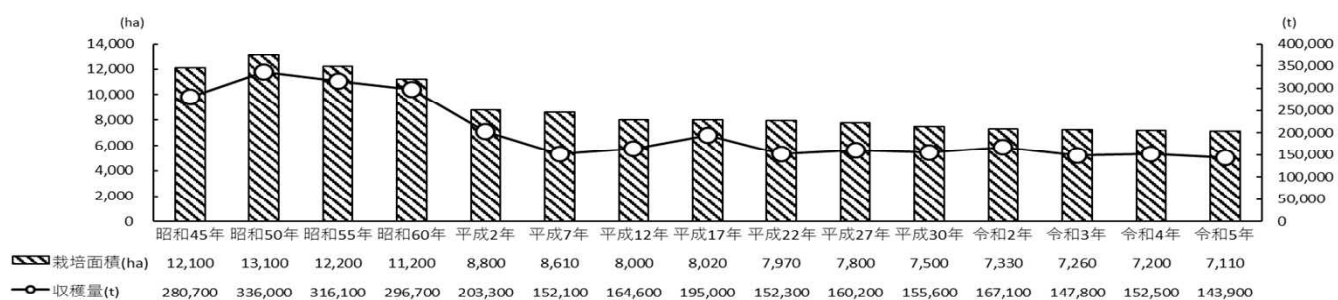
(農林水産統計年報)

かんきつ類の栽培面積及び収穫量の推移

- みかん：みかんの過剰生産とオレンジ輸入自由化により、昭和50年から平成2年にかけて栽培面積は急激に減少したが、平成2年から緩やかな減少傾向となる。
- はっさく：みかんの転換作物として昭和60年まで栽培面積が増加したが、その後減少傾向に転じ、近年はその傾向が鈍化している。
- 不知火：平成の後期にかけて、みかん、なつみかん、いよかん等の転換作物として栽培面積が増加したが、近年は横ばい傾向にある。

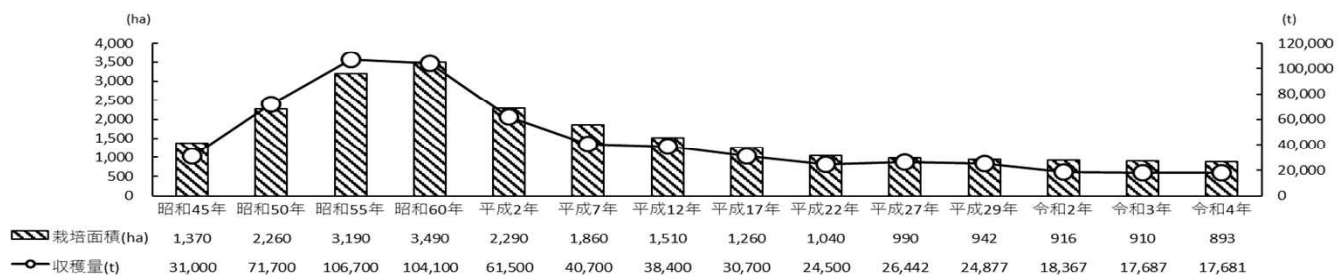
令和5年の全国順位とシェア（栽培面積）：みかん 1位（19.1%）

a みかん



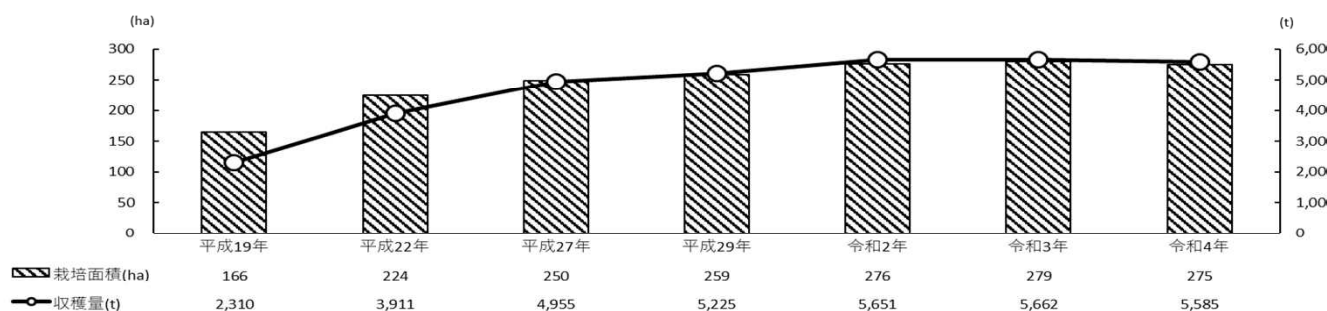
（農林水産統計年報）

b はっさく



（特産果樹生産動態等調査）

c 不知火



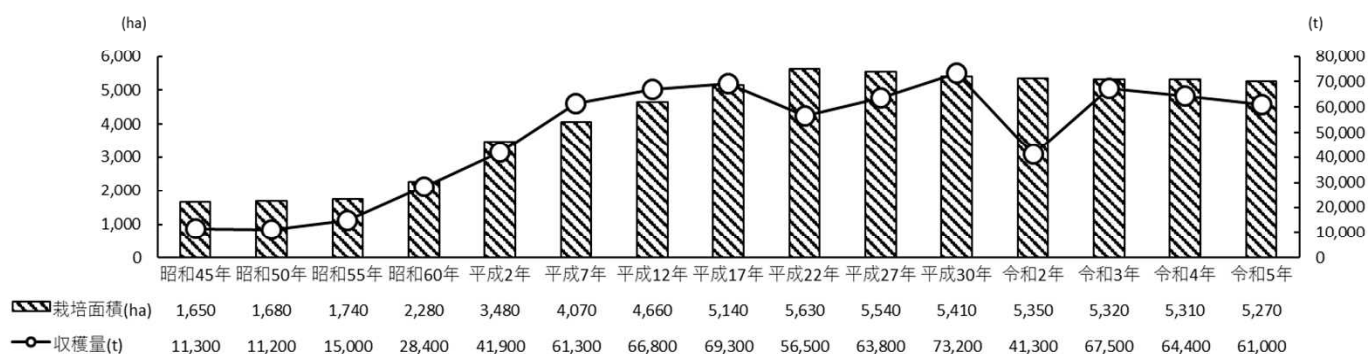
（特産果樹生産動態等調査）

落葉果樹の栽培面積及び収穫量の推移

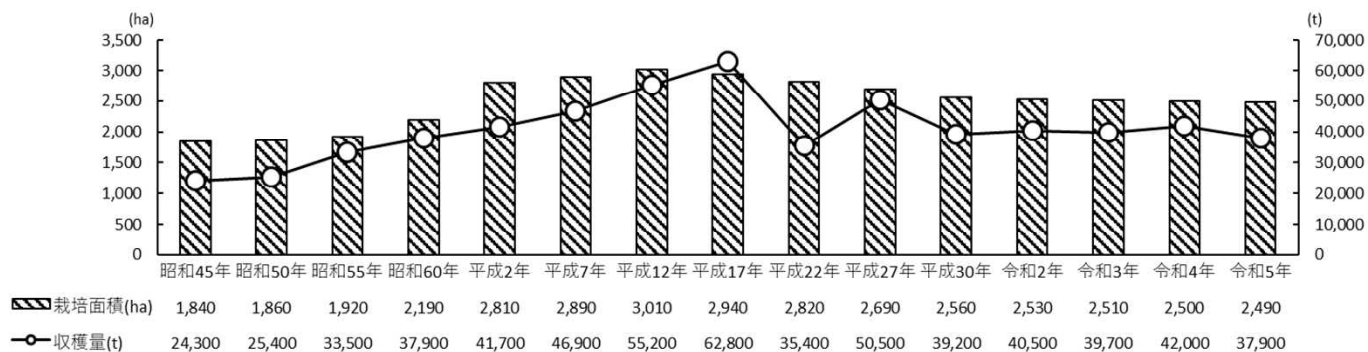
落葉果樹全体では、昭和55年以降みかんからの転作により栽培面積は増加傾向であったが、近年は減少傾向にある。

- うめ：健康食ブームと相まって栽培面積が急増したが、平成20年をピークに近年は減少傾向にある。
- かき：昭和55年から平成2年にかけて栽培面積が急増し、平成12年をピークに近年は減少傾向にある。
- もも：昭和55年から平成2年にかけて栽培面積が急増し、平成10年をピークに近年は減少傾向にある。
- すもも・キウイフルーツ：平成2年をピークに栽培面積は減少したが、近年は横ばいとなっている。

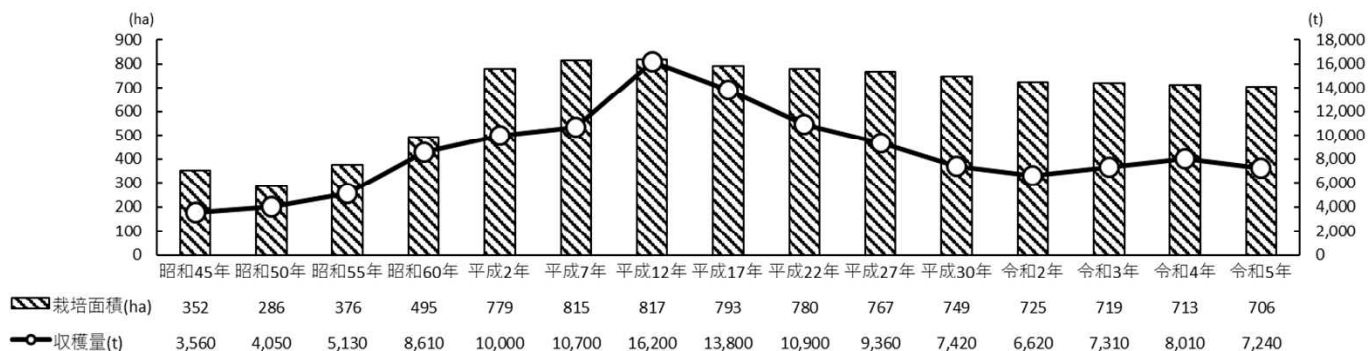
a うめ



b かき

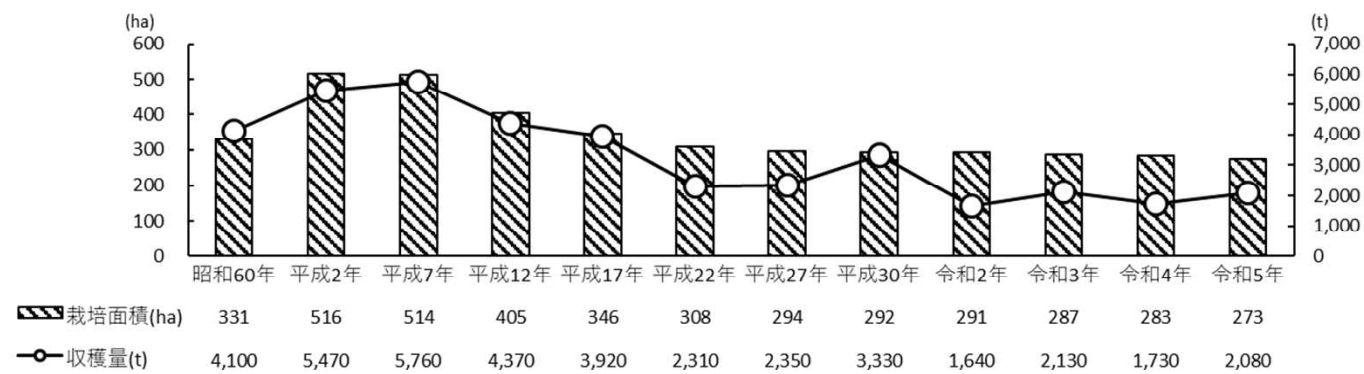


c もも

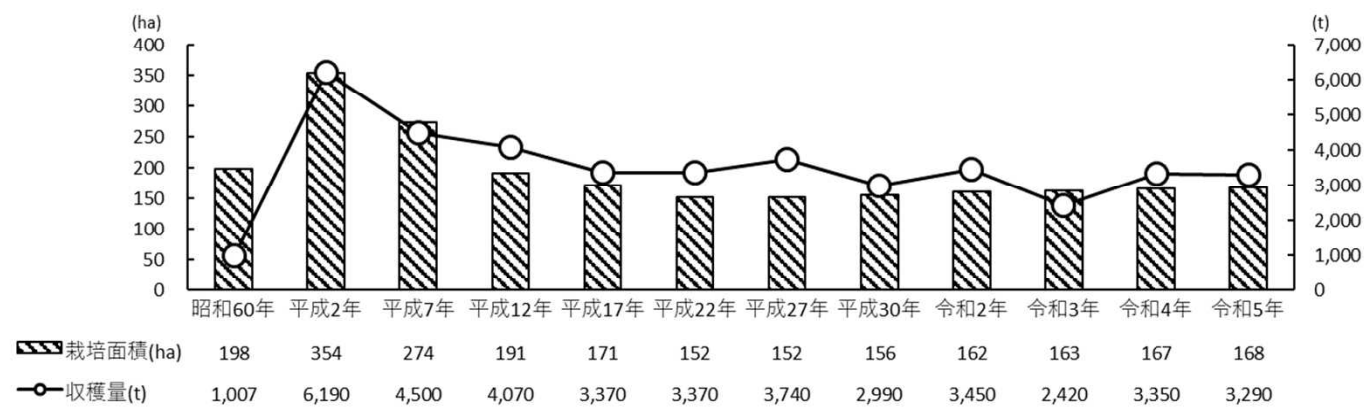


(農林水産統計年報)

d すもも



e キウイフルーツ



(農林水産統計年報)

落葉果樹の栽培面積

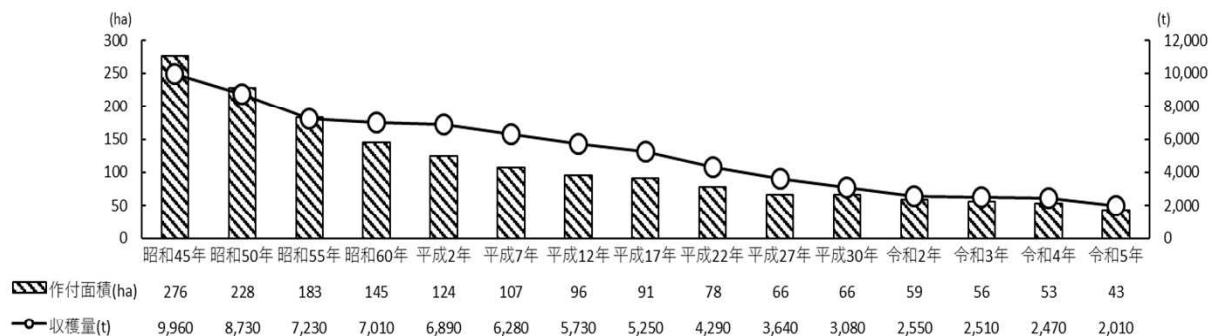
令和5年	全国	和歌山			全国順位		
	栽培面積(ha)	栽培面積(ha)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
うめ	13,900	5,270	1	37.9	和歌山	群馬	福井
かき	17,900	2,490	1	13.9	和歌山	奈良	岐阜
もも	9,950	706	4	7.1	山梨	福島	長野
すもも	2,740	273	3	10.0	山梨	長野	和歌山
キウイフルーツ	2,020	168	3	8.3	愛媛	福岡	和歌山

(農林水産省作物統計)

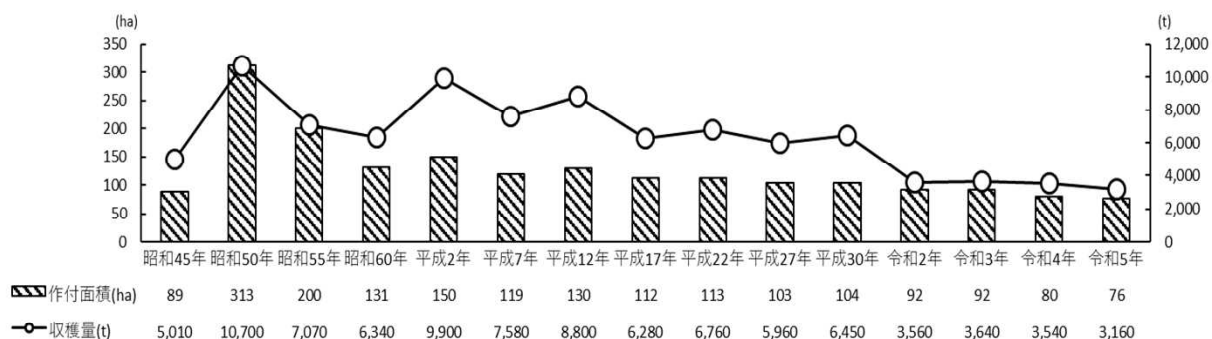
果菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

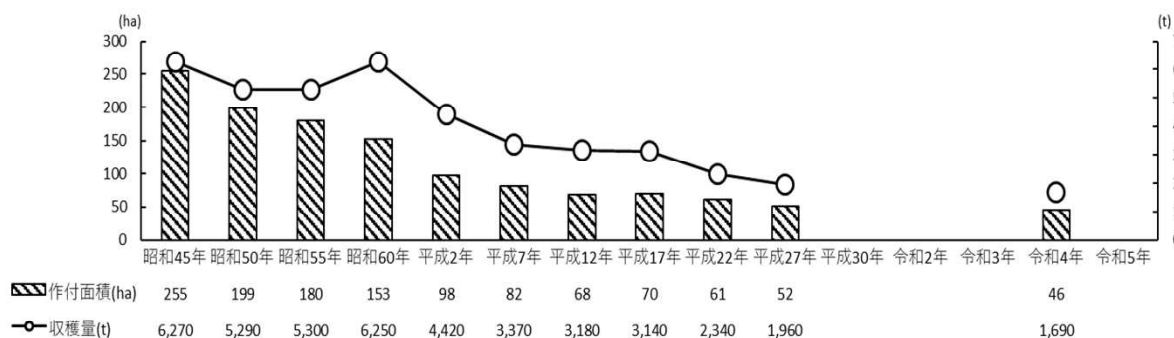
a きゅうり



b トマト（ミニトマトを含む）

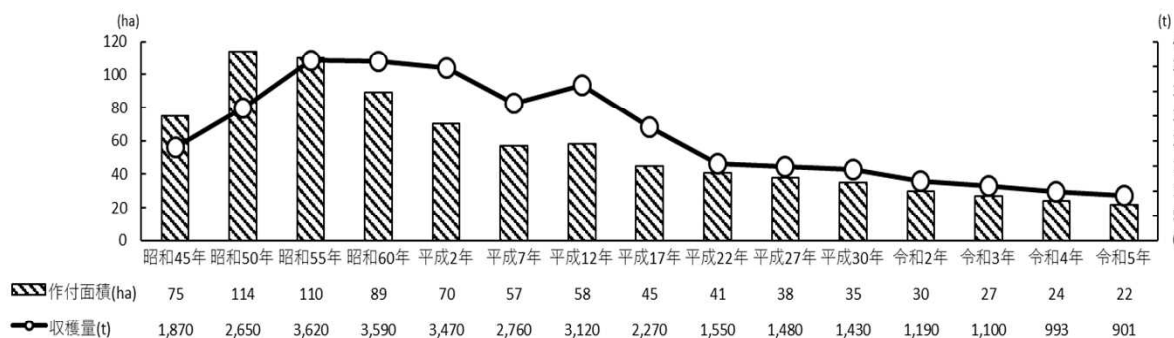


c なす



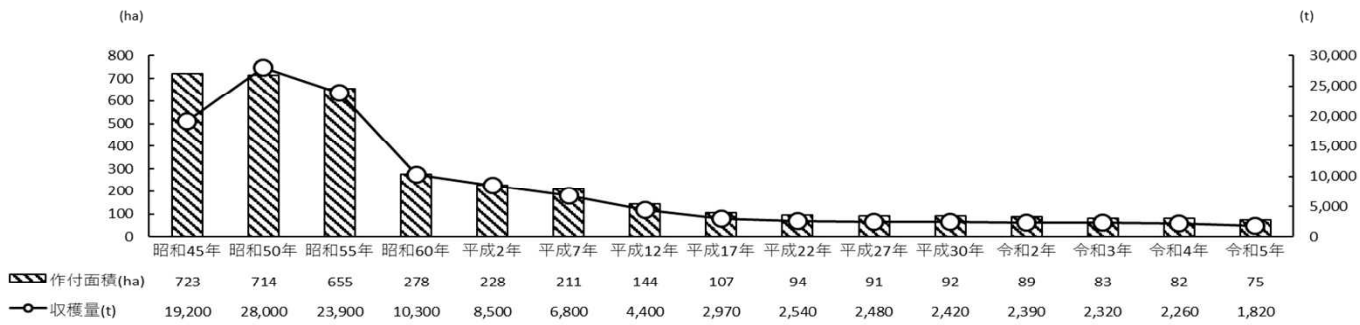
※平成30年、令和2年、3年、5年の数値はない。

d ピーマン（ししとう含む）

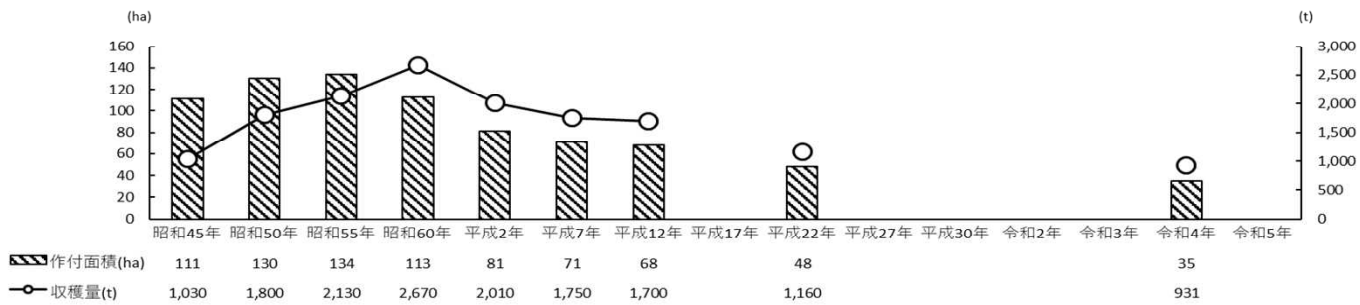


(野菜生産出荷統計)

e すいか



f いちご



※平成17年、27年、30年、令和2年、3年、5年の数値はない。(野菜生産出荷統計)

果菜類の作付面積

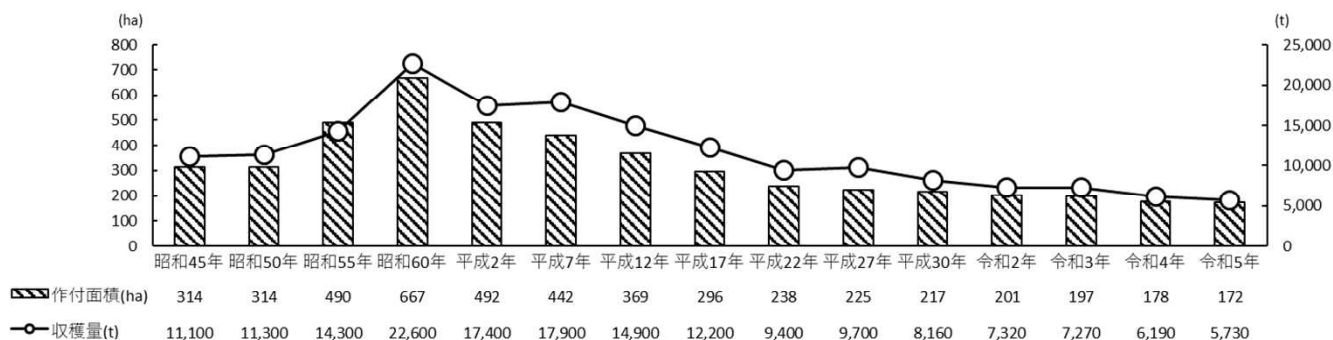
令和5年	全国	和歌山			全国順位		
	作付面積(ha)	作付面積(ha)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
きゅうり	9,490	43	42	0.5	群馬	福島	宮崎
トマト	10,900	76	39	0.7	熊本	茨城	北海道
ピーマン	3,090	22	28	0.7	茨城	宮崎	岩手
すいか	8,690	75	23	0.9	熊本	千葉	山形

(※県順位は、公表されている統計数値から作成した。)

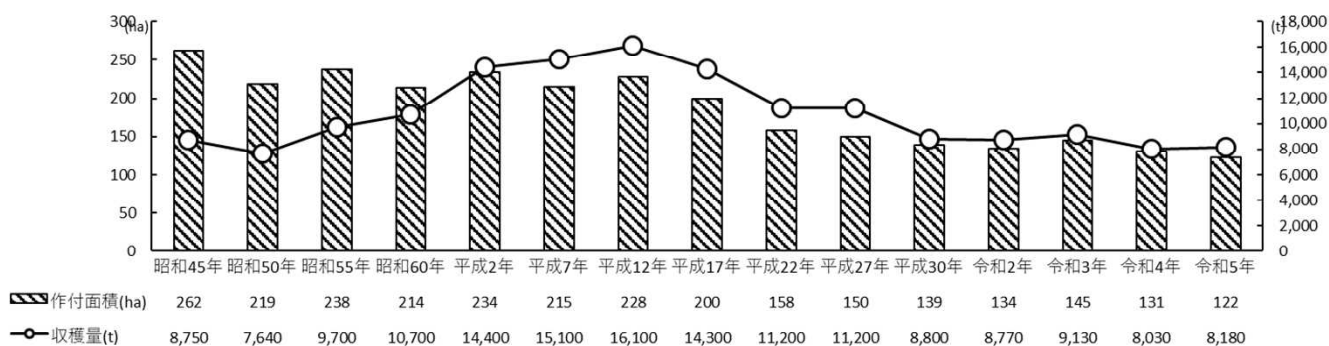
葉茎菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

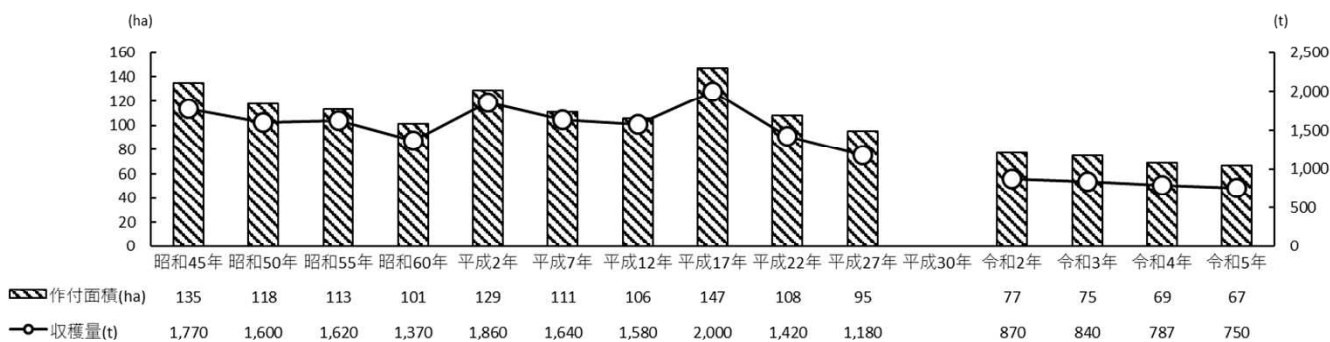
a キャベツ



b はくさい

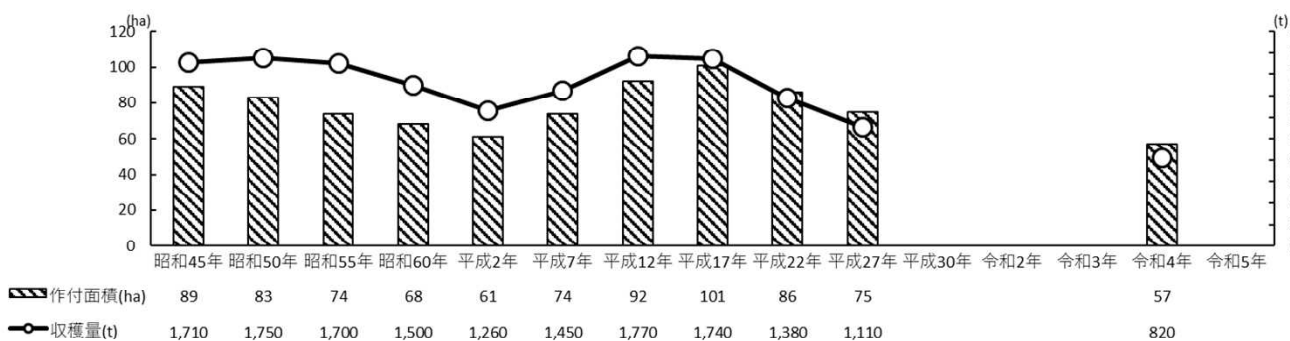


c ほうれんそう



※平成30年の数値はない。

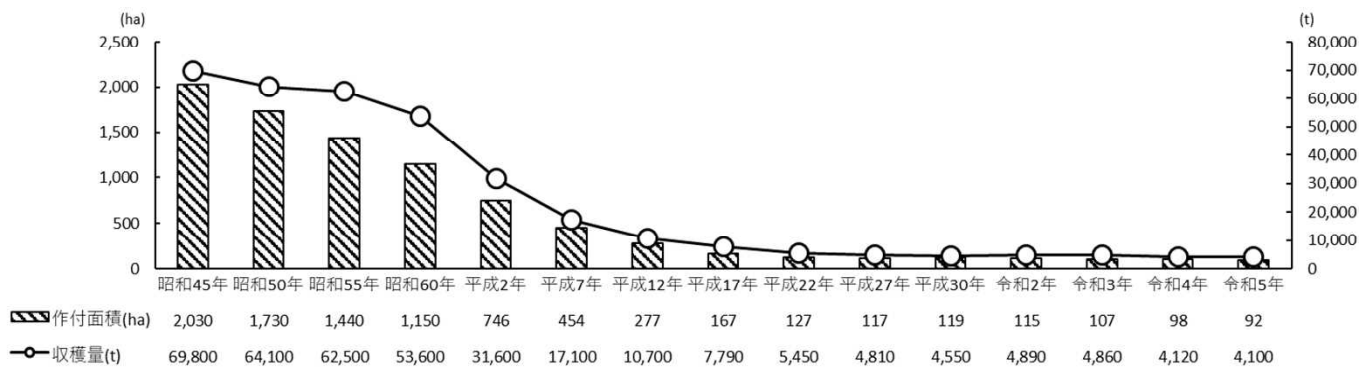
d ねぎ



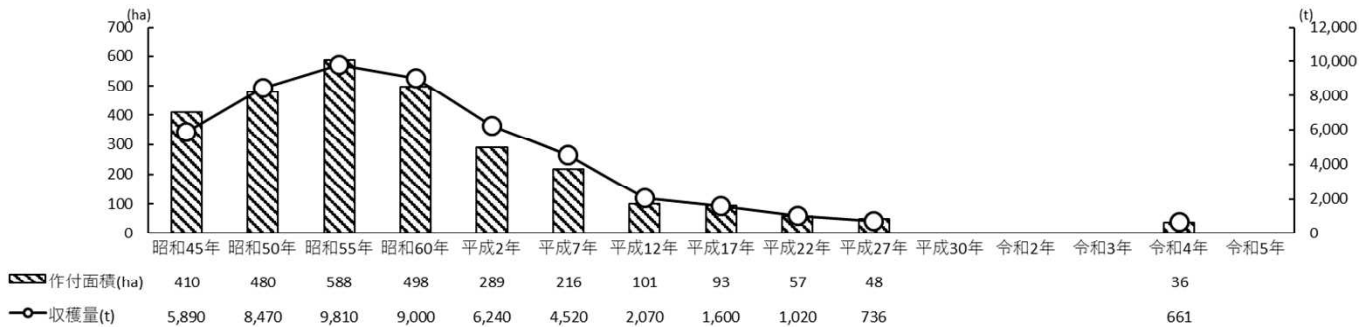
※平成30年、令和2年、3年、5年の数値はない。

（野菜生産出荷統計）

e たまねぎ



f レタス



※平成30年、令和2年、3年、5年の数値はない。(野菜生産出荷統計)

葉茎菜類の作付面積

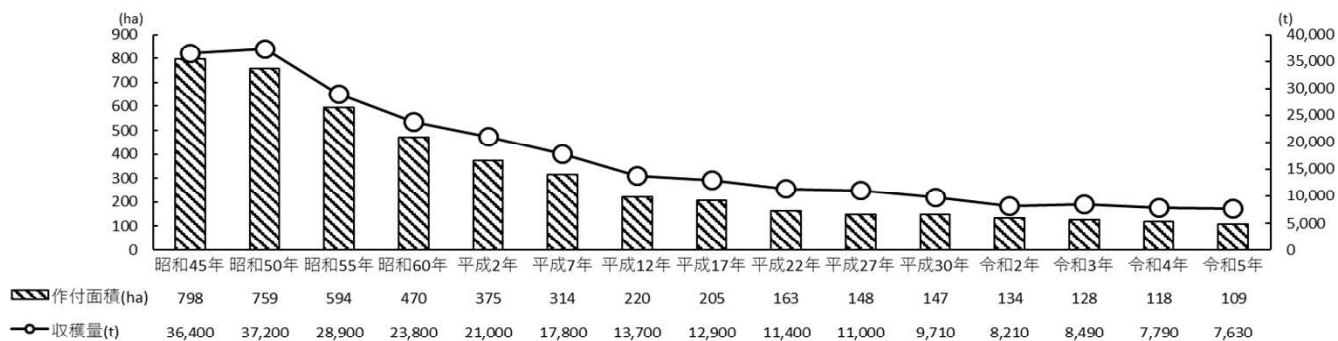
令和5年	全国	和歌山			全国順位		
	作付面積(ha)	作付面積(ha)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
キャベツ	33,700	172	33	0.5	愛知	群馬	千葉
はくさい	15,600	122	28	0.8	茨城	長野	北海道
たまねぎ	25,500	92	25	0.4	北海道	佐賀	兵庫

(※県順位は、公表されている統計数値から作成した。)

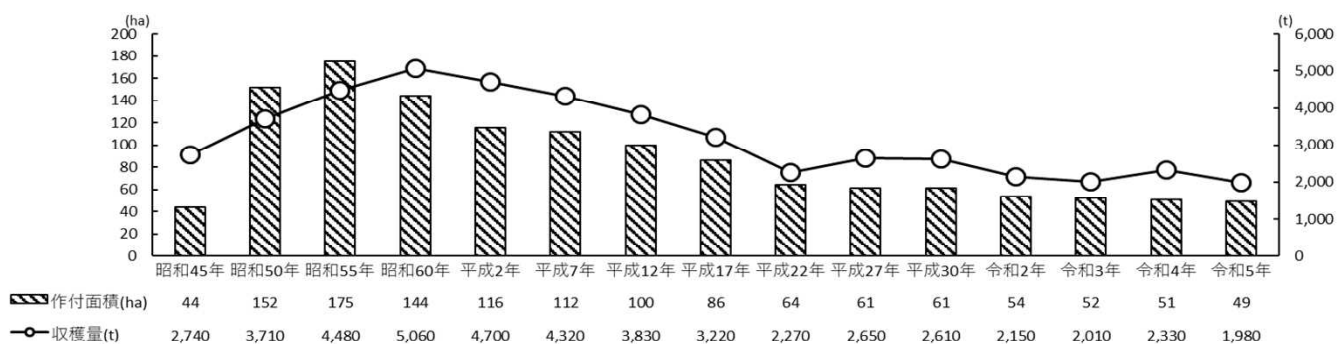
根菜類及び豆類の作付面積と収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であったが、近年は横ばいで推移している。

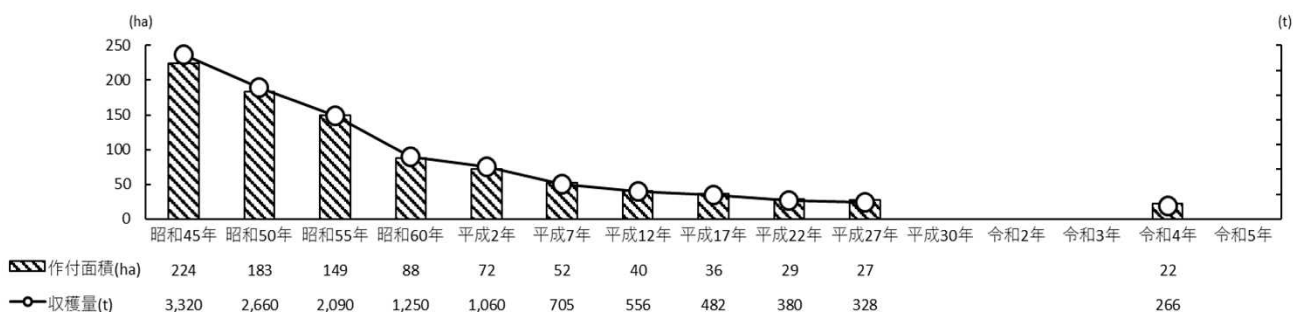
a だいこん



b にんじん

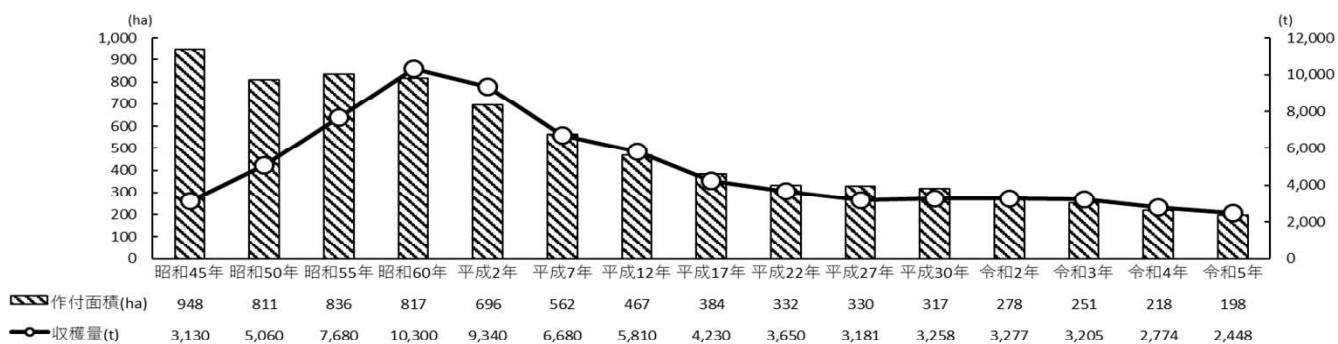


c さといも



※平成30年、令和2年、3年、5年の数値はない。

d えんどう



(野菜生産出荷統計)

根菜類及び豆類の作付面積

令和5年	全国	和歌山			全国順位		
	作付面積(ha)	作付面積(ha)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
だいこん	27,300	109	36	0.4	北海道	青森	千葉
にんじん	16,300	49	25	0.3	北海道	千葉	青森
えんどう	3,136	198	3	6.3	鹿児島	福島	和歌山

(野菜生産出荷統計)

(※1 県順位は、公表されている統計数値から作成した。)

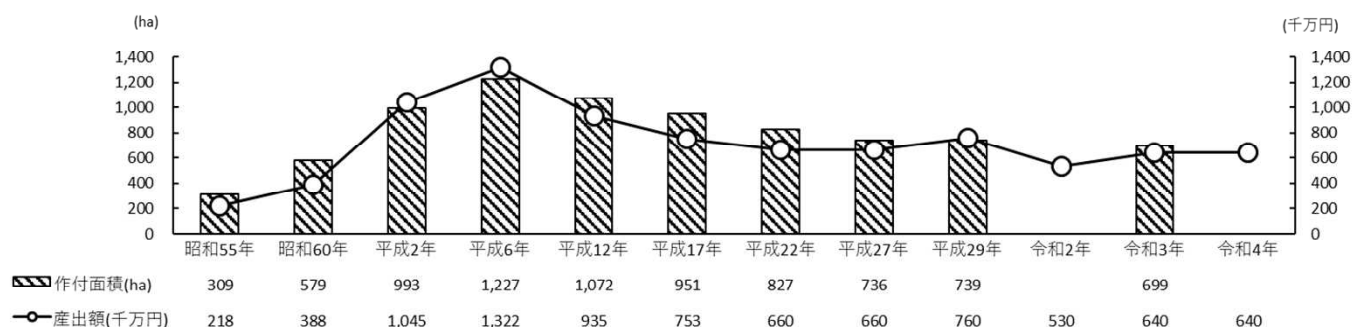
(※2 だいこんの全国順位は北海道と青森が同率1位)

(※3 えんどうは、うすいえんどう、きぬさやえんどう、オランダの合計。)

花き生産の推移

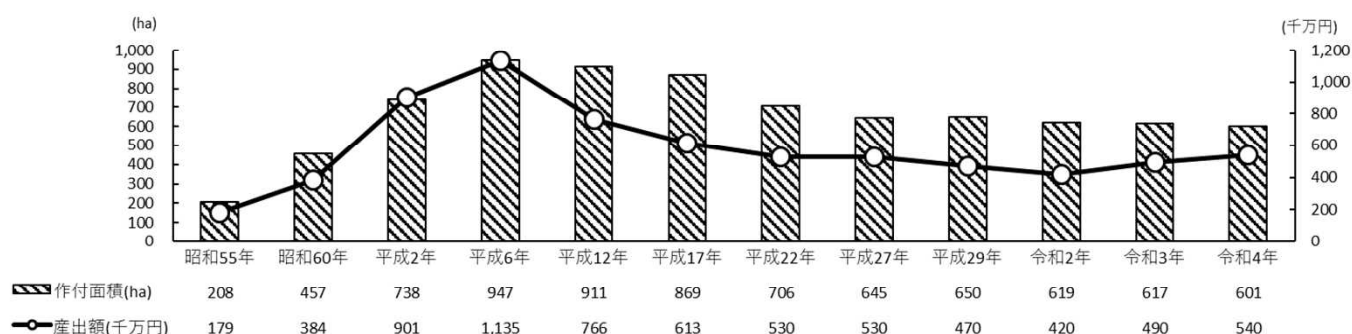
花き全体の栽培面積は昭和60年から平成2年にかけて需要の増加や野菜からの転換により急激に増加し、平成6年にピークとなった。その後減少に転じ、近年は横ばいになっている。

a 総計

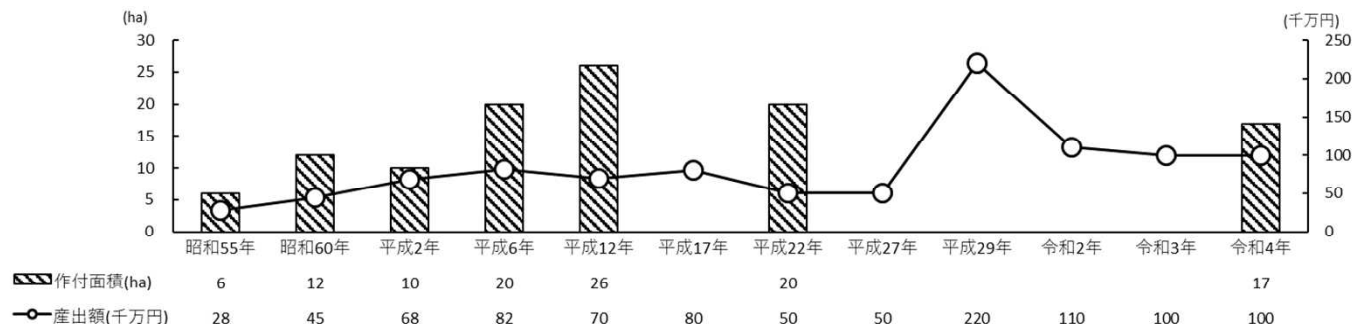


b 切花

※令和2年、4年の作付面積の数値はない。

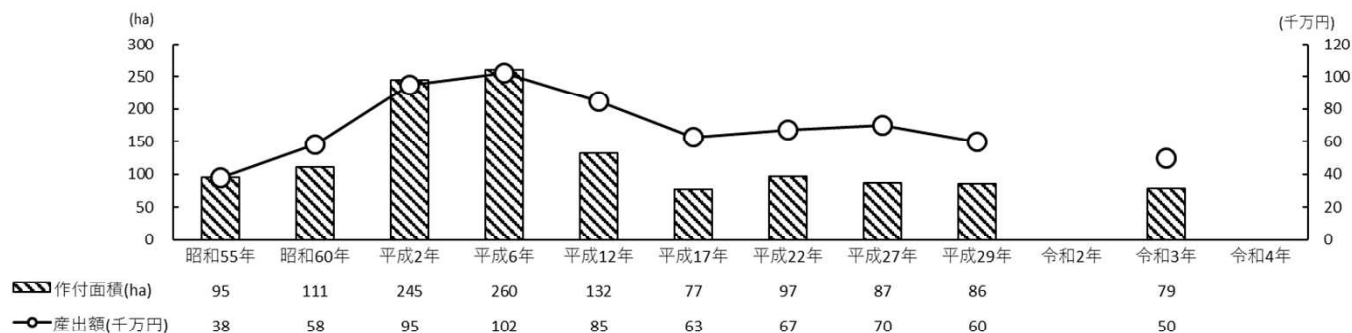


c 鉢物・花壇苗



※平成17年、27年、29年、令和2年、3年、4年の作付面積の数値はない。

d 花木類



※令和2年、4年の作付面積、産出額の数値はない。

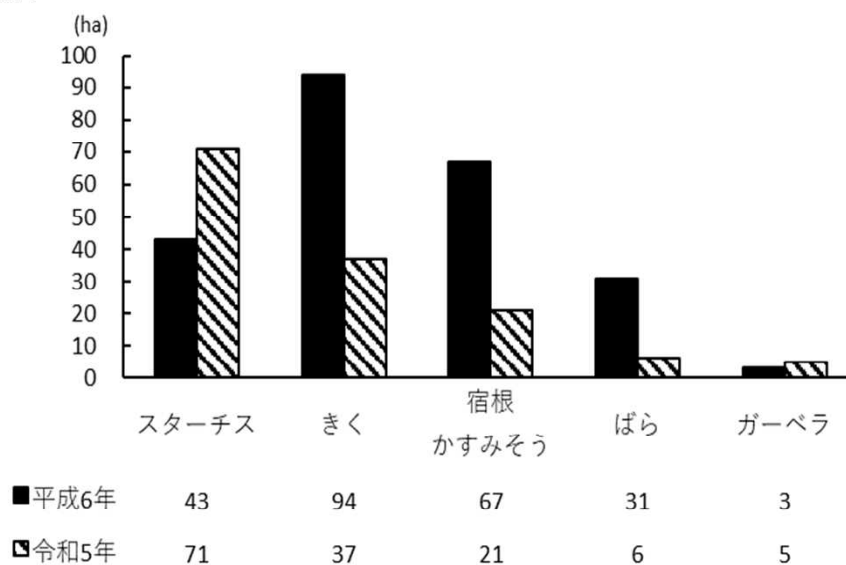
※ただし、産出額のうち、a総計の一部（花木類、地被植物類）及びd花木類については出荷額

産出額：品目別生産量×品目別農家庭先販売価格

出荷額：出荷された農作物の金額

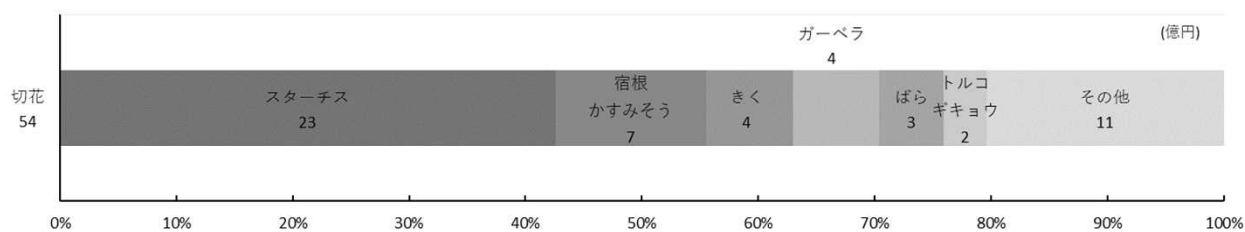
（花き生産出荷統計、花木等生産状況調査）

主要切花の作付面積



※きくのみ令和4年の数値（令和2年以降は、作付け面積を3年ごとに調査）
（花き生産出荷統計）

切花生産額の品目別割合（令和4年）



（花木等生産状況調査）

花き産出額

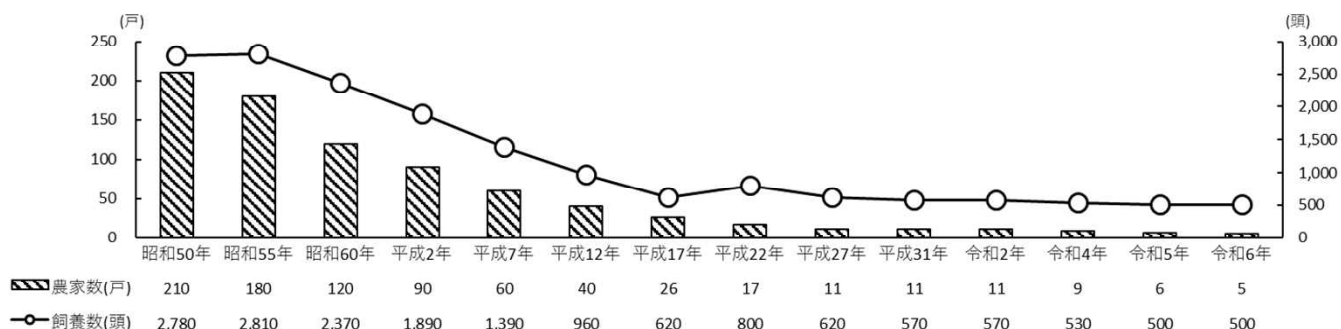
令和4年	全国	和歌山			全国順位		
	産出額(億円)	産出額(億円)	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
スターチス	58	23	1	39.7	和歌山	北海道	長野

（花木等生産状況調査）

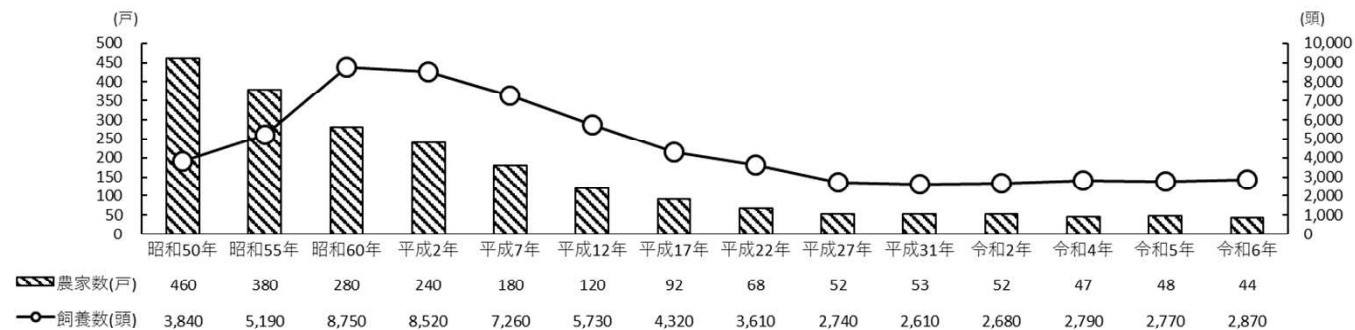
家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数の推移

畜産農家数及び飼養頭羽数は減少傾向であるが、近年は横ばいで推移している。
(採卵鶏の農家戸数は平成元年から300羽以上のみ、平成9年から1,000羽以上のみ、平成14年から種鶏農家除く。)

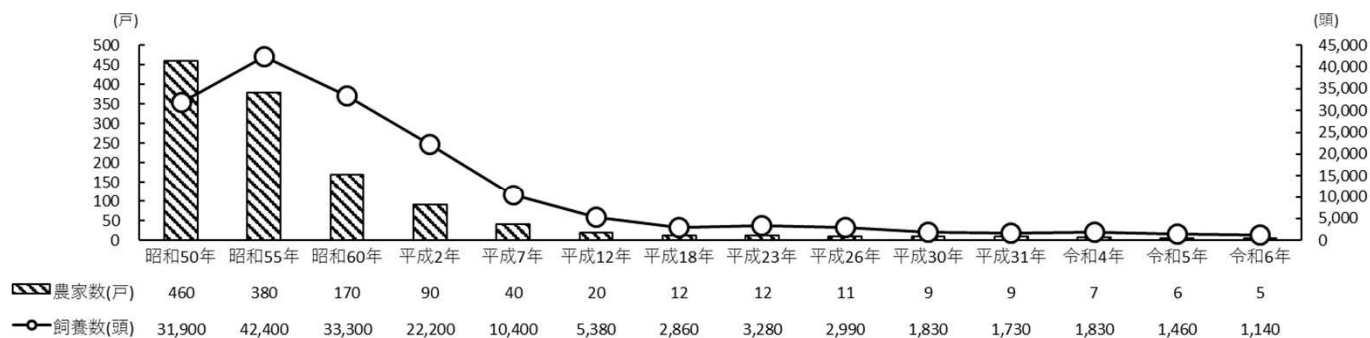
a 乳用牛



b 肉用牛

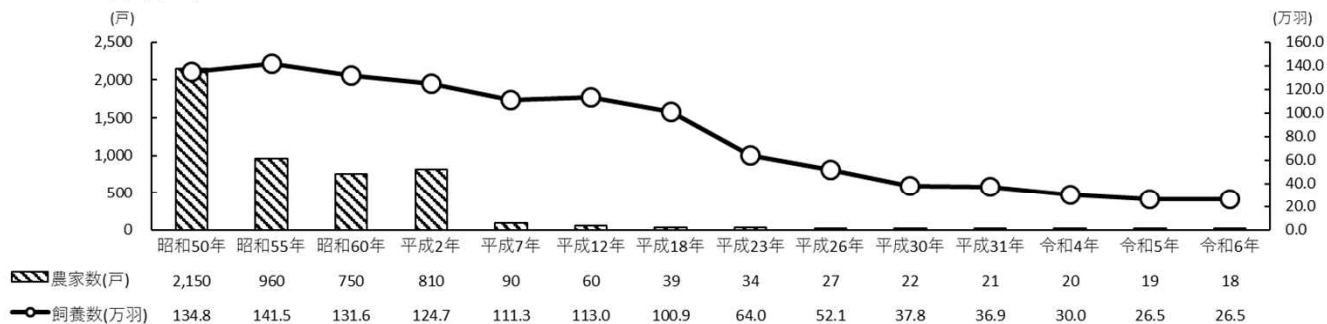


c 豚



※平成17年、22年、27年、令和2年の飼養戸数、頭数の数値はない。

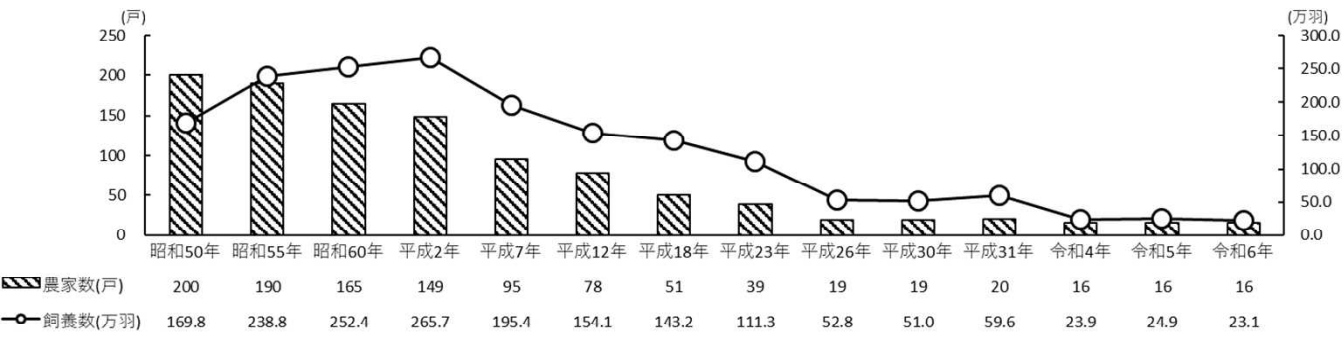
d 採卵鶏



※平成17年、22年、27年、令和2年の飼養戸数、羽数の数値はない。

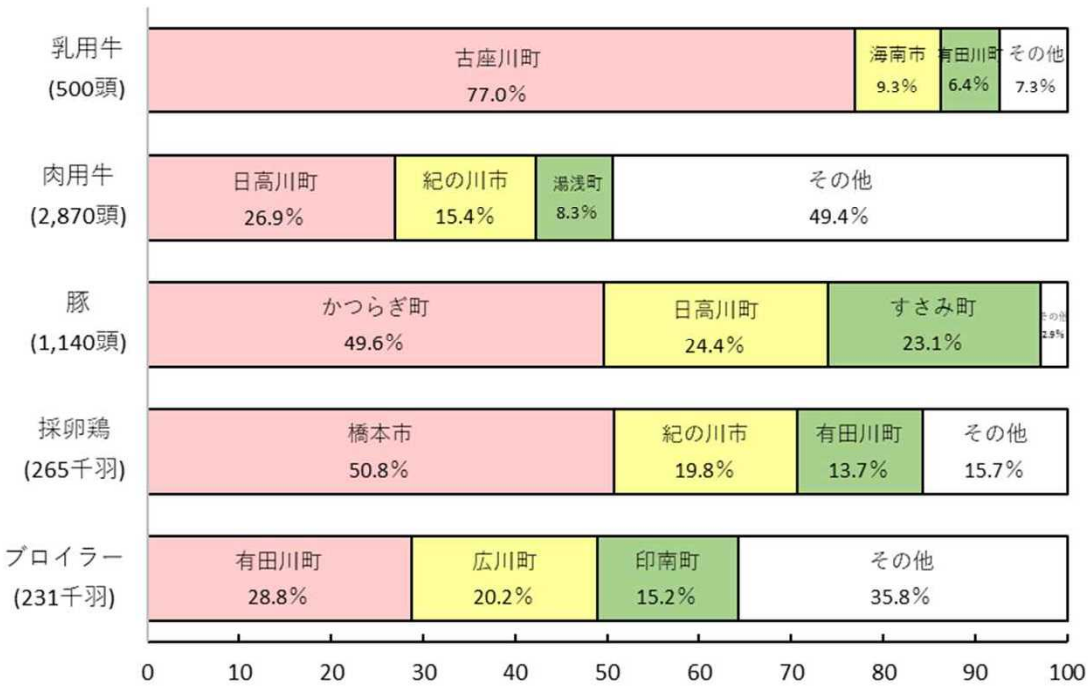
(農林水産省「畜産統計調査」)

e ブロイラー



※平成17年、22年、27年、令和2年の飼養戸数、羽数の数値はない。
平成23年は県畜産課業務資料
(農林水産統計年報)

市町村別・家畜飼養頭羽数（令和6年）



(県畜産課業務資料)

家畜の飼養頭羽数・戸数

令和6年		全国	和歌山			全国順位		
飼養頭数	乳用牛（頭）		500	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
	肉用牛（頭）	2,672,000	2,870	44	0.1	北海道	鹿児島	宮崎
	豚（頭）	8,798,000	1,140	47	0.0	鹿児島	北海道	宮崎
	採卵鶏（千羽）	170,776	265	42	0.2	千葉	茨城	鹿児島
	ブロイラー（千羽）	144,859	231	-	0.2	鹿児島	宮崎	岩手
飼養戸数(戸)	乳用牛	11,900	5	47	0.0	北海道	岩手	栃木
	肉用牛	36,500	44	42	0.1	鹿児島	宮崎	岩手
	豚	3,130	5	43	0.2	鹿児島	宮崎	千葉
	採卵鶏	1,700	18	31	1.1	愛知	鹿児島	千葉
	ブロイラー	2,050	16	23	0.8	宮崎	鹿児島	岩手

(農林水産省「畜産統計調査」 乳用牛、肉用牛豚、採卵鶏、ブロイラー：令和6年2月1日現在)

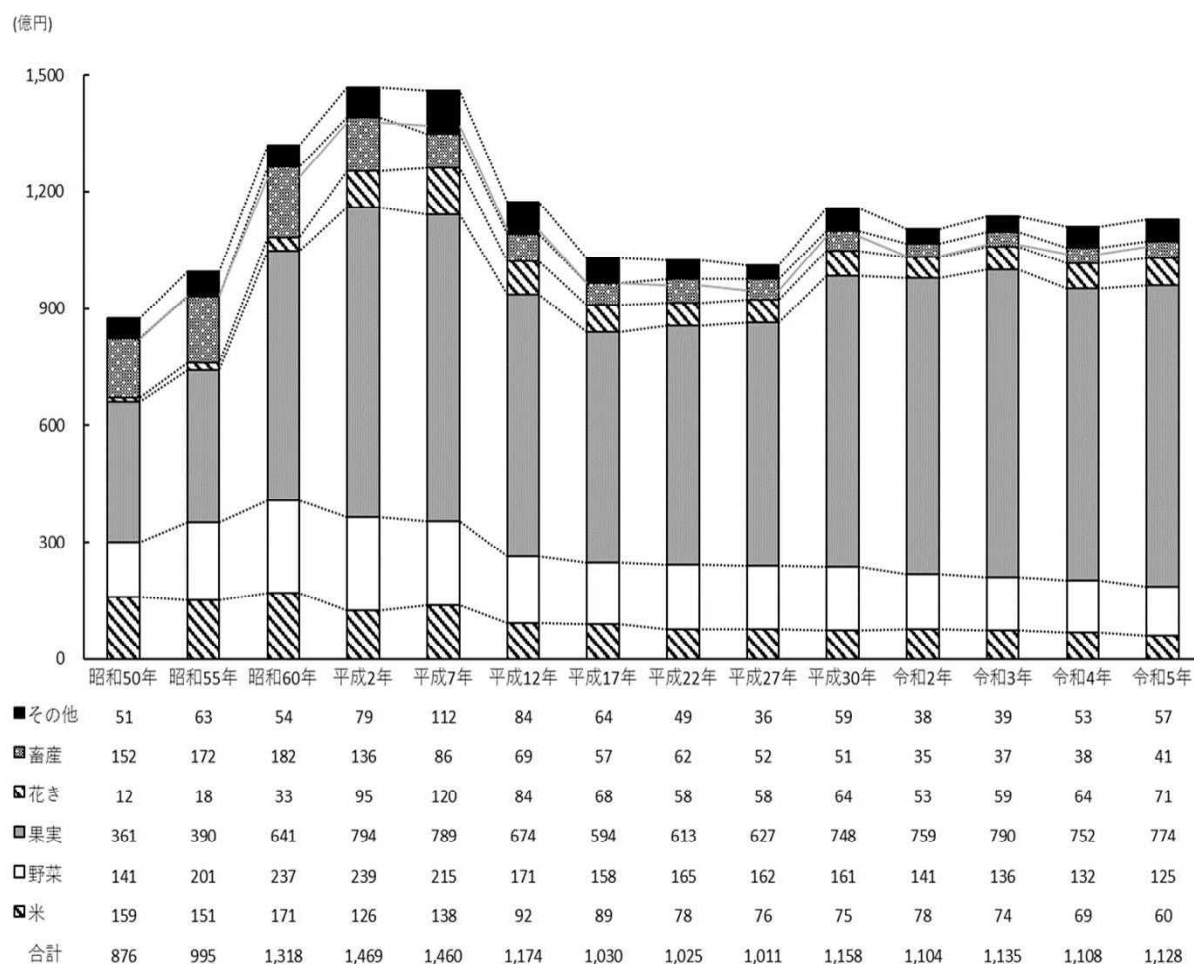
※ブロイラーの飼養頭羽数および飼養戸数の和歌山県の順位は、飼養頭羽数および飼養戸数の数値がXとなっている県があるため、確定できない。
X：個人または法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

5) 農業所得と農業産出額

農業産出額はピークの平成3年で1,737億円となり、昭和45年に比べ3.0倍となっている。しかし、平成11年以降ピーク時の60～70%程度の産出額で推移している。

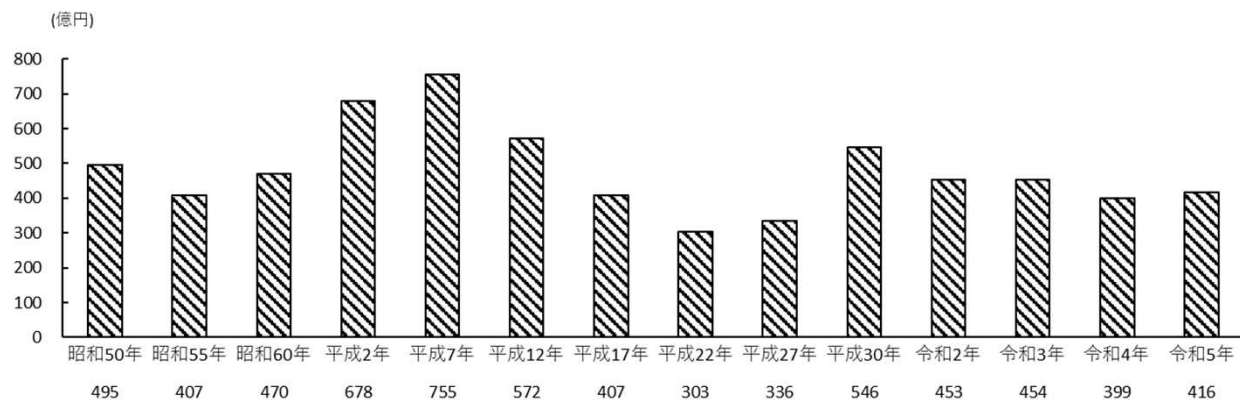
また、生産農業所得も同様の傾向で令和5年は416億円となり、平成8年をピークに減少傾向にあり、近年はピーク時の75%程度で横ばいとなっている。

農業産出額の推移



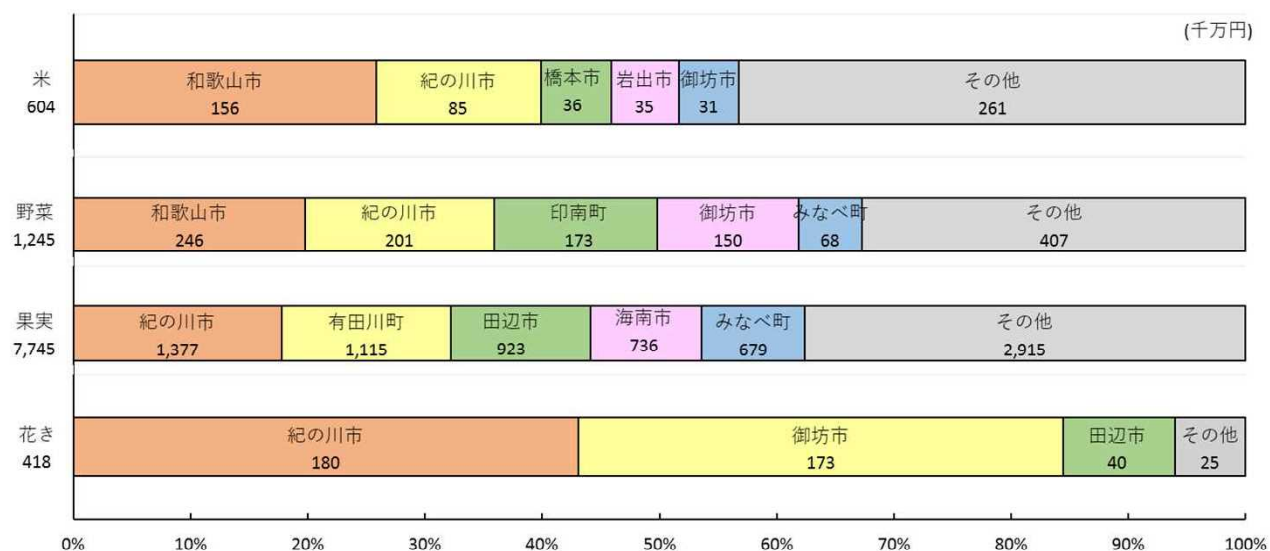
(農林水産統計年報)

生産農業所得（県計）の推移



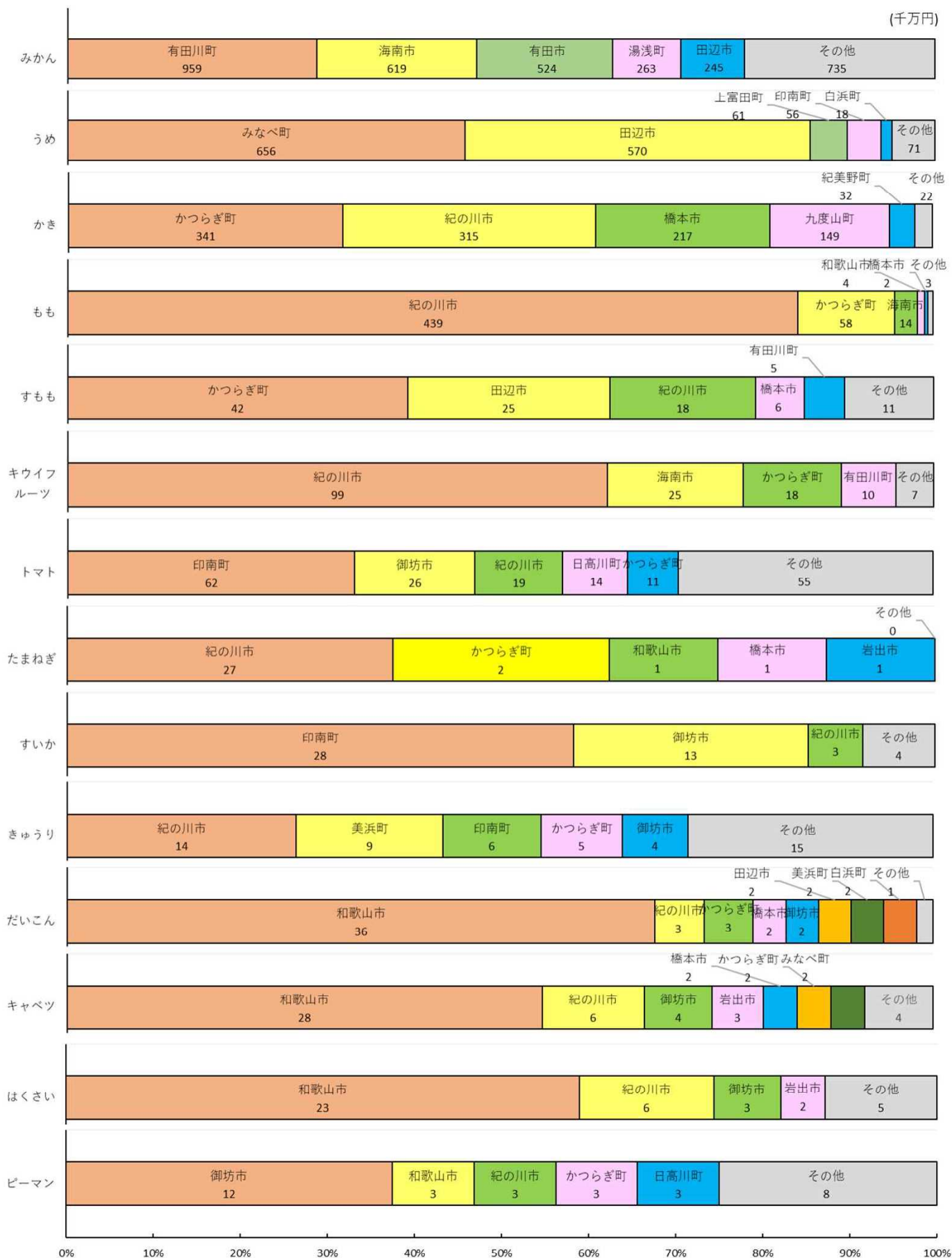
(農林水産統計年報)

市町村別・部門別農業産出額（令和5年）



(市町村別農業産出額（推計）)

市町村別・品目別農業産出額（令和５年）



（市町村別農業産出額（推計））

農産物産出額上位10品目の推移

令和5年の農産物産出額を品目別にみると、「みかん」と「うめ」で全体の約42%を占めており、1位 みかん、2位 うめ、3位 かき、4位 米、5位 もも となっている。



(生産農業所得統計)

6) 農業農村整備事業の基盤整備状況

農業農村整備事業における基盤の整備状況は、畑の農道整備**58.1%**、畑地かんがい施設整備**34.7%**、区画整理**7.0%**で田の区画整理は**18.2%**となっている。整備済みの農業水利施設については、本格的な保全対策を進めている。

1 畑（果樹園・普通畑）の整備状況

	H19	H22	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
畑面積(ha)	25,100	24,500	23,600	23,200	22,900	22,700	22,500	22,300	22,200	22,000
農道整備済み面積(ha)	12,204	12,348	12,720	12,776	12,777	12,777	12,777	12,777	12,777	12,777
整備率(%)	48.6	50.4	53.9	55.1	55.8	56.3	56.8	57.3	57.6	58.1
畑地かんがい施設整備済み面積(ha)	7,501	7,501	7,710	7,710	7,710	7,710	7,710	7,710	7,710	7,710
整備率(%)	29.9	30.6	32.7	33.2	33.7	34.0	34.2	34.6	34.7	34.7
区画整理済み面積(ha)	1,520	1,525	1,562	1,562	1,562	1,565	1,565	1,565	1,565	1,565
整備率(%)	6.1	6.2	6.6	6.7	6.8	6.9	6.9	7.0	7.0	7.0

- ・農道整備済みとは、末端農道が整備された畑
- ・畑地かんがい整備済みとは、スプリンクラー等の施設が整備されている畑及び、水源が確保され必要に応じて散水が可能な畑
- ・区画整理には、農地造成を含む

2 田の整備状況

	H19	H22	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
田面積(ha)	10,900	10,500	9,740	9,610	9,520	9,460	9,330	9,260	9,160	8,970
区画整理済み面積(ha)	1,588	1,588	1,601	1,601	1,601	1,601	1,607	1,613	1,623	1,629
整備率(%)	14.6	15.1	16.4	16.7	16.8	16.9	17.2	17.4	17.7	18.2

- ・区画整理には、**30a**未満の小区画を含む

3 土地改良施設の整備状況

	H19	H22	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
農業水利施設延長(km)	682	682	682	682	682	682	682	682	750	750
保全対策済み延長	24	52	103	103	110	112	112	113	113	114
ため池の箇所数	5,566	5,453	5,260	5,260	5,260	5,131	5,130	4,984	4,750	4,729
整備済み箇所数	1,115	1,177	1,300	1,319	1,344	1,359	1,381	1,402	1,415	1,423
整備率(%)	20.0	21.0	24.7	25.1	25.5	26.5	26.9	28.1	29.8	30.0
農業集落排水整備対象人口(人)	61,878	45,231	42,657	41,468	38,952	38,736	37,977	36,275	37,629	36,364
整備済み人口	43,302	43,395	41,094	39,456	37,975	37,717	36,944	35,281	36,635	35,452
整備率(%)	70.0	95.8	96.3	95.1	97.5	97.4	97.2	97.3	97.4	97.5
広域農道整備済み延長(km)	66.9	69.8	73.6	75.2	75.4	75.8	77.3	77.4	77.7	77.8

- ・農業水利施設延長は、県営事業以上で造成された幹線施設延長